

富山市総合計画審議会第3回活力部会 概要

場所：富山市役所議会棟7階 第2委員会室

日時：平成18年2月13日（月）

14：00～15：30

1 開会

2 部会長あいさつ

※ 長尾部会長 あいさつ

富山市における優越性・優位性・強みとは何か、強い点を磨くことが富山市の個性や創造性ということになるのではないか。

また、行政における県と市の役割分担を計画の中で考えなくてはならない。

今回、計画の体系等が示されたが、富山市の強い所を伸ばしていくことを意識しながら市のすべきことを協議していきたい。

3 議事

(1) 策定スケジュール（案）について

(2) 総合計画の体系（案）について

<概要>

(事務局) 議事(1)、(2)の資料について説明

(部会長) ただいまの説明について、忌憚のないご意見をお願いしたい。

(委員) 総合計画の体系図(案)のところであるが、理念が先か、課題が先か色々な考え方があるが、課題と理念の関係の整理が必要ではないか。

富山市のまちづくりの主要課題において、人口は増えることが必要なのか、少なくとも現状維持が必要ということを課題としているのか。

またコンパクトなまちづくりと少子化・人口減少への対応の間に相反するような印象を受ける。

(部会長) 考え方として、理念を元に課題を抽出する方法と、現状の課題を整理して理念を設定する方法の2つのアプローチの仕方があるが、この点についてご意見を伺いたい。

(委員) まず、将来像を設定し、現況をとらえ、将来像と現況のギャップから見える課題を整理し、どのような施策で解決するのかを計画で検討することが必要ではないか。現況から将来像と施策を検討すると、将来像に対して紆余曲折しながら進んでいく印象がある。

(委員) 富山市はコンパクトなまちづくりが最も重要と考える。車がなくても生活できるまちにすべきである。

(委員) ボトムアップによる都市像の設定が望ましいと考える。

(部会長) 都市像と現況から課題を把握し、現況と都市像のギャップを埋める体系を核としながら、現況からも歩み寄る体系が必要である。

(委員) 課題から理念を出すのか、理念から課題を出すのか、難しい所である。主要課題の中には時間の概念が含まれている。今困っていることと10年後、20年後に困っていることは違う。体系図(案)の矢印も一方向ではなく、双方向にし、結果をフードバックしながら進めるべきものではないか。

(部会長) 両方の視点から、整合をとりながら将来を見据えることが重要である。

(委員) 強みを生かすという部会長の言葉もあったが、富山は工業県であり市である。生活に必要な所得を得るための工業が、観光にとって変わることはありえない。工業や産業の視点が主要課題の中に入っていない。この部会でも工業のことにはあまり触れていなかった。主要課題の中で触れておく必要があるのではないか。

(委員) 農業については、全体の生産額が減少しているが、近年農業・農村も多面的機能が見直され、地域社会との関わり、環境・森林や、健康・安心・生きがいなど福祉の分野にも関わっている。農業を含む産業のことについて、主要課題で触れておく必要があるのではないか。

(部会長) 先日、市のガラスの特別デザイナーにタレントの“はな”さんが認定されたが、市の産業の力点について意見を伺いたい。

(委員) IT産業という方向は必要である。

(部会長) 従来からの基盤産業である工業、農業について新市の課題の中へ入れる必要がある。では観光の施策の方向等についての意見を伺いたい。

(委員) 観光について言えば、今後の方向性は万遍なく表現されている。基本的な方向としては良いのではないかと考えるか、これらすべてを事業化するわけには行かない。事業の選択と集中、そして成果を挙げることが重要である。

(委員) 都市と農村の関係であるが、まず、コンパクトなまちづくりである。この政

策は私自身、大いにエールを送って頑張ってもらいたいと考えているが、合併により富山市は非常に大きくなった。富山地域の市街地周辺を見るとそうでもないように感じるが、それ以外の地域（例えば八尾地域）では、全体の人口が少なくなる中で、それぞれの拠点に人口を集中させることは、裏を返せば中山間地の人口が減少するということである。都市と農山村の人口のバランスをどのように考えるのか。予測は難しいと思うが、農山村にはどのくらい人口を残さないといけないのか、現時点で考える必要があるのではないかと。

もう 1 点、バランスという観点で言うと、農業政策は新たな経営安定対策が示され、いわゆるプロ農家とそうではない農家にわけ、プロ農家の経営には国がある程度重点的に補填していくことになった。逆にいうと、プロではない農家の経営は見ないという方向になっている。この状況を“光と影”と言っているが、“光”の部分はそれなりに経営が成り立つと思うが、一方で“影”の部分、いわゆる一般の兼業農家の経営が揺らいでくると、コミュニティが揺らいでくることが考えられる。今しがた頂いた地域別ワークショップの結果を見ると、コミュニティのことが意識して記載されている。コミュニティをベースとした農業振興政策をどこかで位置付ける必要があるのではないかと。

具体的には、コミュニティ単位の農業資源を把握して、具体的な地域の創意工夫と努力を活かす部分に支援していく施策が必要である。

国は光の部分の支援、残された影の部分は地方自治体が支援する必要がある。

（委員） 地方分権社会では、過疎など地方の抱える問題は地方自治体が担うものである。そういったものは、やはり地方で考えていかなければならない。

（部会長） 地域やコミュニティが支えているものについては、市なり地方行政が考えていかなければならない。

（委員） コミュニティ単位で努力することで所得を得て、所得の足りない部分に税金を投入してコミュニティを維持するのが全体として良いのか、あるいはそうではないのか、かなりシビアな“人”の取り合いの問題である。

確かに都市と農村の人口のバランスをとらなければ、結局人は都市に行ってしまう。

（委員） 都市と農村の人口バランスをしっかりと検討しなければならない。合併したことによって周辺が過疎になってしまうのではないかと不安がある。この辺りをしっかりと都市像に掲げる必要があるのではないかと。

（部会長） コミュニティ社会の単位から見直すことも必要である。都市と農村のバランスは非常に難しい問題ではあるが、視野に入れて考える必要がある。農業も産業として支援しなくてはならない。

- (委員) IT 創業者など IT 産業の視点はあるが、クスリに由来するバイオ産業の視点がない。県の施策もあるため、県と市の役割分担の問題かもしれないが、強みということで言うと、もう少し触れておく必要があるのではないかな。
- (委員) 富山駅前には魅力あるライトアップがない。倉敷のライトアップは非常に良い。ガラス工芸美術を照明に取り入れることができれば、産業的にも発展していくのではないかな。
- (委員) 松川べりの彫刻にも照明をうまく組み合わせることが必要ではないかな。
- (事務局) ガラスについては、照明という切り口ではないが、部分的に城址大通りなどに設置し、まちの賑わいやガラスの PR に努めている。また、橋の欄干にも取り入れている。確かにライトアップという視点では取り組んでおらず、貴重なご意見と思う。
- (委員) 前回の部会でも話をしたが、実際にガラスは設置してあるものの、あまり気づかないのが実情である。照明に使えばもっと目立つと思われる。
- (委員) コンパクトなまちづくりに関して、コミュニティバスを広域観光にどう活かすのか、基本的な考えを記載する必要があるのではないかな。
- (事務局) 市全体を回遊するようなルート設定は難しいと思うが、既存の公共交通機関の連携をいかにうまく図るかが重要であると考えている。ライトレールや北陸新幹線、市内軌道、更には高山本線の連携をいかに地域の活性化に結びつけるか、今後のまちづくりにおいて、鉄軌道が活性化のキーワードとなると考えている。
- (委員) 富山はどこかに行きたくても困る。公共交通機関を使った行き方が分からない。都市から来た観光客は、公共交通機関を乗り継ぐことに抵抗はない。公共交通の時刻の入った観光ルートを示すことで、観光の問題は随分解決される。
- (部会長) 観光資源のネットワーク化と交通アクセスのネットワーク化はまだ実現されていない。双方のネットワーク化は広域滞在型観光の推進にもつながる。
- (委員) 富山は立山連峰が美しく見える。観光客が立山を見て、美味しいものを食べ、泊まっていただくシステムを構築することが必要である。
- (部会長) 立山のビューポイントをバスが回遊するような仕組みがあっても良いかもしれない。
- (委員) 高山線から見える立山も非常に美しい。

(委員) 岐阜市はビューポイントの広告が非常にうまい。

(部会長) いいところを観光客にどう見てもらうかという見せ方のソフトの問題を表現する必要がある。市民一人ひとりが、私だったら観光客にここを進めるという情報を発信しないと観光客には伝わらない。

(部会長) 農林水産業の6次産業化とはどのようなものか？

(事務局) まず農産物の生産を行い(1次産業)、生産した農産物を加工し(2次産業)、更に加工品を販売(3次産業)する。これらを農家自身が行うことを(1×2×3=6)6次産業化と称している。

(部会長) 小布施でもこの表現を使っているようである。

(委員) 1次産業に特色をもたせることが重要である。独自の食文化に裏付けられた特色ある農産物の生産を検討しなくてはならない。

(委員) 特色ある農産物の生産の検討には、まちの歴史を見て、過去に生産していた品目を探す方法と、過去に生産していない品目を探す方法の2つのアプローチがある。

(部会長) では、地域別ワークショップの結果について報告願います。

(3) その他

・地域別ワークショップの結果報告について

(事務局) 議事(3)の資料について報告

<概要>

(部会長) ただいまの説明について何かご意見をお願いしたい。

(委員) 参加者の年齢構成はどうなっているのか。

(事務局) 40歳代から上の世代で構成されている。

(委員) この報告の中にもあるが、地域力の強化については特に重点を置く必要がある。コミュニティをベースに地域経済を活性化していく方向が必要である。活性化の知恵が地域から出るように支援することが必要である。すべての産業に

いえることであるが、活性化の主体は地域であるという考え方が重要である。

(部会長) 最近ではコミュニティビジネスという言葉があるが、これには地域のリーダーが重要な役割を担う。リーダーが考えたことを行政が後押しできれば、富山市の中でもこのようなものがたくさん出てくるのではないか。現在は福祉の分野に偏っているようである。もっとそれが色々なテーマに広がれば活力増進につながる。

(委員) コミュニティビジネスはリーダーがいないととまらない。地域をその気にさせるような人が現れるのか、または送り込むのか、どちらかでないとうまくいかない。

(委員) その辺りの調整を行政が担うべきである。

(委員) 福祉以外のコミュニティビジネスとしては、まちづくりとやまで実施している活動で、街なかサロンでの農産物の対面販売が好評であり、集客している。

(委員) コミュニティ内で住民の気持ちがある程度高まらないとできない。

(部会長) 富山市では校区というコミュニティの単位がある。この単位を活かすことも必要である。

(委員) 農業の分野では、ちょうど顔が見える範囲である旧村単位が非常に有力である。

(委員) 今後団塊の世代の卒業を控えているが、その世代の中には農業に興味を持っている人がたくさんいるのではないか。市民農園などでそれらの人を活用することも考えられるのではないか。

(委員) それらの人を活用するにも、車で30分かかるとなような場所では無理である。やはり旧村単位程度が妥当である。

(委員) グリーンツーリズム等の活用も滞在型観光には重要である。

(部会長) 他にご意見がないようですので、本日の部会は終了します。なお、協働部会が2月27日に開催されるので、本日のご意見はそちらで報告しますのでよろしくお願いします。

4 閉会

(以上)